

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月15日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20520176

研究課題名（和文） 歌論書歌学書の伝本に関する書誌学的調査研究

研究課題名（英文） Bibliographical Research on Manuscripts of Waka Poetics and Poetic Treatises

研究代表者

佐々木 孝浩（SASAKI TAKAHIRO）

慶應義塾大学・斯道文庫・教授

研究者番号：20225874

研究成果の概要（和文）：大量に伝存する歌論書・歌学書について、書誌学的に完備されたデータを備えた総合的伝本目録の作成を目指し、関連資料を多く所蔵する内藤記念くすり博物館を始めとする、多くの機関へ出張調査を行った。また今日流布本としての位置を占める『日本歌学大系』の本文について、その底本との具体的な比較検討を行って、その問題点を明らかにするなどして、今後の歌論書・歌学書の研究のあり方を検討した。

研究成果の概要（英文）：We aim to create the comprehensive catalog of manuscripts of Waka poetics and poetic Treatises which has various bibliographical information. We made many trips for research to many libraries and museums that hold many related documents such as the Naito Museum of Pharmaceutical Science and Industry. We clarified the problems of the text of “Nihon Kagaku Taikai” by comparison with the original text. We have investigated the nature of future research of manuscripts of Waka poetics and poetic Treatises.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：和歌・歌論歌学・書誌学・伝本研究・古典籍

## 1. 研究開始当初の背景

平安時代以降に大量に著述された歌論書や歌学書は、文学語学のみならず思想史・美術史等の多方面の研究においても重要な対

象であり資料でもありながら、その総合的な伝本調査や伝本目録の作成はなさないままになっている。また流布本として利用されている『日本歌学大系』の本文に、多くの問題

があることは認識されてはいるものの、その具体的な検討はほとんどなされていない。このような現状に鑑みて、関連諸伝本の書誌学的な調査と、『日本歌学大系』本文の確認作業を計画した。

## 2. 研究の目的

研究代表者と連携研究者が共通して有する書誌学の知識を活用して、全国に散在する歌論書・歌学書の博搜的な伝本調査を行い、文学的また書誌学的に高水準な伝本目録を作成し、また善本による翻刻本文の提供も行って、関連諸分野の研究において、歌論書歌学書を学術的に安心して利用できる環境を整えることを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究は、同時並行で二種の研究を進めた。その一つは、代表者の所属する慶應義塾大学附属研究所斯道文庫において、約半世紀にわたって続けられてきた、全国の図書館・文庫等の古典籍調査活動によって蓄積された書誌データの中から、歌論書・歌学書に関するもののみを抽出して、これを整理する研究的な作業である。もう一つは、未調査の歌論書・歌学書の伝本を直接調査して書誌学的なデータを著録する作業である。後者によって得られたデータは随時前者の作業に追加して、両者の統合も行った。

前者の作業では、代表者の所属する斯道文庫に、研究分担者や連携研究者も含めて定期的に集合し、斯道文庫に蓄積されてきた、所蔵先別に整理された書誌調査カードの中から、歌論書・歌学書のカードの抜き出し作業を行い、これをコピーして、新たに作品別の整理を行い、マイクロフィルム及び紙焼写真等の複写資料が存在するものについては、その情報の付加を行った。

後者の作業については、前者の作業を通じ

て自ずと明らかとなった、斯道文庫で未調査の対象資料を所蔵する機関や、近時に蔵書目録が刊行されたり、インターネットで公開されたりした機関から選び出した、対象資料の所蔵先に対し、代表者・研究分担者・連携研究者が手分けをして出張調査を行った。その調査の際に画像の複写データを入手できるところでは、その申請をも行った。また可能な範囲で原資料の購入も行い、研究対象として調査を行うと共に斯道文庫の歌論書・歌学書関連古典籍コレクションの充実にも努めた。

## 4. 研究成果

代表者の所属する慶應義塾大学附属研究所斯道文庫は、書誌学を専門とする研究所であり、開設された50数年前より、古今和歌集注釈書や歌論書・歌学書等の和歌の学門に関連する古典籍資料の調査と蒐集を、大きな研究テーマの一つとして継続的な研究活動を行ってきた。古今和歌集注釈書については、本研究の研究分担者(2年目より連携研究者)である川上新一郎を代表とし、同じく本研究の研究分担者(2年目より連携研究者)である伊倉史人も加わった、平成12~13年度の科学研究費補助金「古今集注釈書データベースの作成」(基盤研究(C)(2))により、斯道文庫を古今集注釈書の書誌データと画像資料を備えた研究センターとすることができ、また慶應義塾大学附属研究所斯道文庫編『古今集注釈書伝本書目(斯道文庫書誌叢刊)』(勉誠出版、2007)を刊行した。

本研究はこの前研究活動を継承する意味合いを有しており、まだ完備したものにはほど遠いが、この4年の研究期間の間に、斯道文庫を書誌データと画像資料を備えた歌論書・歌学書の研究センターとする為の基礎を形成することができた。書誌データと画像資料の蓄積を主体とするものではあったが、資

料性の高い関連古典籍の蒐集も行えたことは意義深く、殊に今日の研究に於ける歌論書・歌学書の流布本としての地位を占める、『日本歌学大系正編・続編』の制作の中心的な立場にあった、久曾神昇博士の旧蔵書を、本研究補助金以外の資金なども含めて数十点纏めて購入できたことは、今後の『日本歌学大系』の本文研究の為にも重要な成果であったといえる。

書誌調査は地道な作業であり、特別に目立った成果というものはないのだが、内藤記念くすり博物館に関連資料が多数所蔵されていることが判明したので、それらを本研究参加者で纏まって3年に亘って集中的に調査できたことは、特筆すべき事柄である。期間内に間に合わなかったが、その書誌データを完備した目録を作成中であり、できるだけ早く公表する予定である。

またそうした調査研究を行う過程で、改めて藤原定家の『詠歌大概』や、定家に仮託された『三五記』『雨中吟』の伝本の膨大さと、その注釈書の種類と伝本の多さが明らかになり、その総合的な研究を計画したが、まだまだ調査が不十分であり、公表できる段階に至っていない。こちらも今後継続的な研究を行いたい。

具体的な成果としては、『日本歌学大系』の本文を研究に利用する問題点を、二条為世『和歌庭訓』を対象として、底本となった元禄板本との比較によって明らかにした論文を代表者が執筆したほか、研究分担者や連携研究者が各人の研究テーマに応じた対象作品についての翻刻や注釈、伝本研究などの著書や論文を発表し、また研究発表を行うこともできた。

一例だけでは不十分であるが、『日本歌学大系』を最新の研究に利用することには注意が必要であることを明らかにできたことは

重要であり、その正統編収載の範囲に留まらない歌論書・歌学書の、総合的な伝本研究と、最先端の研究に堪えうる本文の作成と提供が必要であることが再確認できたものと考える。そうした作業は本研究のメンバーや斯道文庫のみで行える課題ではないが、本研究を通して得られた様々なデータや資料を活用して、その先導的な役割を今後積極的に果たして行きたいと考えている。

また本研究を通して購入した古典籍類は斯道文庫の蔵書として、整理後に研究者に広く公開する予定である。

5. 主な発表論文等  
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計17件)

佐々木孝造、冊子本の外題位置をめぐって、斯道文庫論集、査読無、46輯、2012、319 - 349

川上新一郎、ノートルダム清心女子大学附属図書館蔵顕昭本古今集覚書、斯道文庫論集、査読無、46輯、2012、233 - 267

佐々木孝造、元禄八年板『和歌庭訓』本文の素性 『日本歌学大系』の底本を考える、藝文研究、査読無、101号、2011、173 - 195

川上新一郎、斯道文庫蔵正保版二十一代集書入覚書 - 小澤蘆庵との関係を中心に -、藝文研究、査読無、101巻1号、2011、231 - 248

伊倉史人、『古今和歌集』の注釈書 - 一条兼良『古今集童蒙抄』『古今和歌集秘抄』を中心に -、注釈書の古今東西(慶應義塾出版会)、査読無、2011、65-83

伊倉史人、江戸前期の『散木奇歌集』 - 下冷泉為景による書写と校合 -、藝文研究、査読無、101号、2011、93 - 117

小川剛生、飛鳥井家の家学と蔵書 - 新続古今集まで、中世の学芸と古典注釈 中世文学と隣接諸学 (竹林舎)、査読無、2011、100 - 120

中川博夫、『瓊玉和歌集』の諸本について、藝文研究、無、101、2011、p 146 - 172

佐々木孝浩、蔵書家大内政弘をめぐって、名だたる蔵書家 隠れた蔵書家 (慶應義塾出版会)、査読無、2010、57 - 79

川上新一郎、古今集仮名序の注釈と改訂について(二) 六人部是香『訂正古今集序』、斯道文庫論集、査読無、44 輯、2010、103 - 138

川上新一郎、古今集仮名序の注釈と改訂について(一) - 荷田春満『古今和歌集序説』、ス道文庫論集、査読無、43 輯、2009、115 - 151

伊倉史人、京都大学文学研究科図書館蔵「俊頼卿口傳」解題・翻刻、平安文学論究 (武蔵野書院)、査読無、2009、831 - 898

小川剛生、大津平野神社蔵『某相伝文書書籍等目録断簡』考証 - 南北朝期飛鳥井家の歌道蹴鞠文書目録か、かがみ、審査無、39 号、2009、1 - 48

小川剛生、禁裏における名所歌集編纂とその意義 - 後陽成天皇撰『方輿勝覧集』を中心に、禁裏本と古典学 (塙書房)、査読無、2009、321 - 355

小川剛生、室町後期一条家の蔵書について - 兼良・冬良・兼冬による保管と活用 -、室町時代研究、査読無、2008、1 - 23

小川剛生、太田道灌の伝記と和歌、文学、査読無、9 巻 3 号、2008、53 - 69

中川博夫、『遂加』の方法、藝文研究、査読無、95 号、2008、115 - 140

[学会発表](計 3 件)

佐々木孝浩、長門二宮忌宮神社大宮司竹中家の文芸 - 未詳家集断簡から見えてくるもの -、中世文学学会大会シンポジウム、

2011・6・4、鶴見大学

館野文昭、南北朝期武家歌人京極高秀とその歌学 - 『或秘書之抄出』と『古今漢字抄』を中心に -、中世文学学会大会、2011・6・4、鶴見大学

館野文昭、藤原定家における三代集注釈書の位相 - 『僻案抄』を中心に -、和歌文学学会例会、2010・7・16、慶應義塾大学

[図書](計 5 件)

小川剛生、角川学芸出版、正徹物語 現代語訳付き、2011、314

小川剛生、山川出版社、中世の書物と学問、2009、120

佐々木孝浩、勉誠出版、古今集注釈書影印叢刊 僻案抄、2008、333

川上新一郎、勉誠出版、古今集注釈書影印叢刊 古今拾穂抄全 4 巻、2008、1512

川上新一郎、勉誠出版、古今集注釈書影印叢刊 古今和歌集註、2008、312

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐々木 孝浩 (SASAKI TAKAHIRO)  
慶應義塾大学・斯道文庫・教授  
研究者番号：20225874

(2) 研究分担者

川上 新一郎 (KAWAKAMI SHINITIRO)  
慶應義塾大学・斯道文庫・教授  
研究者番号：50169679  
(H21 H23：連携研究者)

伊倉 史人 (IKURA HUMITO)  
鶴見大学・文学部・准教授  
研究者番号：70386910  
(H21 H23：連携研究者)

(3) 連携研究者

小川 剛生 (KOGAWA TAKEO)  
慶應義塾大学・文学部・准教授  
研究者番号：30295117

中川 博夫 (NAKAGAWA HIROO)

鶴見大学・文学部・教授

研究者番号：70211414

館野 文昭 (TATENO FUMIAKI)

慶應義塾大学大学院・文学研究科・博士

後期課程